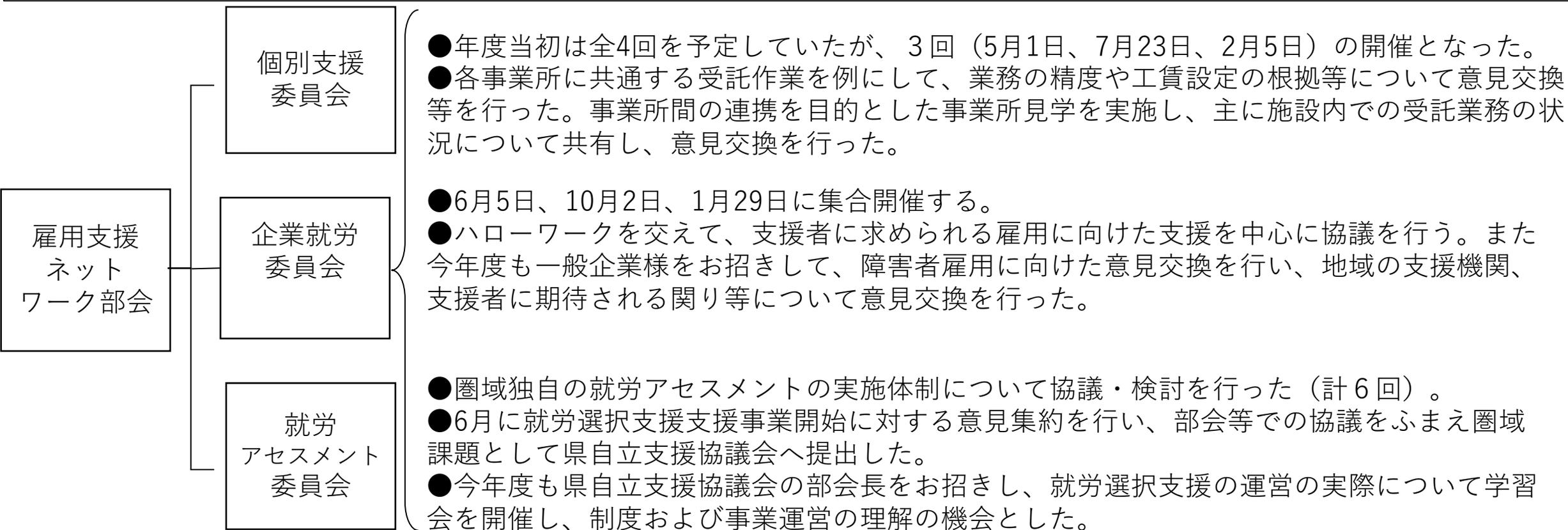


# 令和7年度 各部会活動報告

# 1、雇用支援ネットワーク部会

【目的】障がい者の企業への就職と職場定着をより一層進めていくための、関係機関による連携協力体制の構築を目指し、自分に合った働き方が実現できる地域の体制創りの推進を目的とする。地域情勢・労働情勢に沿った就労支援の在り方について、圏域としての協議を進める。



## 【来年度に向けて】

- ・就労アセスメント委員会を中心に、他圏域の事業所様の協力のもと「就労選択支援」の暫定的な実施を行う。令和9年度からの「北信圏域の就労選択支援事業所」の確立と稼働のための活動を行う。
- ・個別支援委員会では事業所間の協議を通じて、事業運営を含めた幅広い協議を予定する。また企業就労委員会では、引き続き企業情報の共有を通じて、より一般就労に向けた「求められる就労支援」について、協議の場としていく。

## 2、サービス向上部会

【目的】地域の支援力の底上げをめざし、障がい理解や適切な支援ができる人を地域に増やしていく事を狙いとする。また、横のつながりを大切に、情報共有の中から地域の課題の把握・提案を行っていく。

### サービス向上部会

- グループ毎、事例の共有や学習会、情報交換を行いながら支援力の向上に向けた活動を実施。
- 人材育成の観点から、支援の質の向上と職員の定着をテーマとして、研修会の企画・実施を行った。入職1～3年目程度の若手職員を主な対象とし、日々の支援の中で感じている悩みや戸惑い、業務に対する不安などを安心して語り合える場づくりを重視し、支援者同士のつながりの強化を図った。研修会を通じて得られた若手職員の声や気づきについては、今後の部会活動や次年度以降の研修企画に反映させていく。

### 生活支援力向上WG

- 上半期において、今年度から義務化された「地域連携推進会議」について、その開催方法や目的等の確認を行った。
- 下半期においては、各事業所における虐待防止委員会の運営状況や研修の実施状況について意見交換を行い、委員会を形式的な設置にとどめず、実際に機能させていくことの重要性を共有した。

### 居宅介護分野WG

- 今年度は、居宅介護事業における圏域独自のアセスメントシート作成に向けた検討を行い、中野市社会福祉協議会の様式を参考にしながら意見交換を重ねた。実際の支援現場で試行的に活用し、その結果を踏まえて修正・改善を行い、実践に即したツールとして完成させた。

### 児童発達支援ネットワーク

- 今年度は、新たに北信圏域に障害児福祉サービス提供事業所が増えたことも踏まえ、地域における障害児福祉サービスの情報整理と関係機関間の連携強化を目的に取組を進めた。今年度は、事業所一覧の作成を行い、「営業時間」「所在地」「事業所の特色」等を整理し、本人や保護者、支援者が事業所を把握する際の情報提供ツールとして活用することとした。また、送迎体制に関する課題や、サービス利用の見極め、外部機関との連携等について意見交換を行った。

### 【来年度に向けて】

- ・引き続き支援力向上を目的とし、グループごとの事例検討や意見交換を中心とした活動を行っていく。
- ・市町村課題検討ワーキンググループからの提案を受け、相談支援体制の強化や人材育成の必要性が引き続き大きな課題であることを踏まえ、相談支援に係るワーキンググループの位置づけを整理し、継続的に協議できる体制づくりを目指していく。

### 3、精神部会

【目的】精神障がいの方が、住み慣れた地域を拠点とし、ご本人の意向に即して充実した生活を送ることができるよう、医療・保健・福祉等で連携して支援が行える体制を構築していく。更に啓発活動等を行い、安心して暮らし続けていける地域づくりを目指す。

#### 精神部会

##### ●精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議

令和7年度の精神部会では、「居住」の観点から精神障がいのある方の病院・グループホームから地域への移行をテーマに、1事例を基にした継続的な事例検討を中心に取組を進めた。長期入院を経てグループホームでの生活を送り、その後、一般就労し、一人暮らしを視野に入れている事例を複数回にわたり取り上げ、本人の意思や特性、家族の関わり、支援者の関与、医療と福祉の連携等について整理を行った。事例検討を通じて、「なぜうまくいったのか」という視点から振り返りを行い、本人の明確な意思形成、段階的な支援、医療機関と地域支援者の連携、家族の理解と支えといった要素が、地域移行を支えるうえで重要であることを共有した。

#### 地域移行支援委員会

●事例検討の中では、地域移行後の支援として、一般相談支援や自立生活援助の活用、訪問看護による医療的フォロー、金銭管理支援、支援者交代を見据えた引継ぎ体制の構築など、具体的な支援の在り方について意見交換を行った。一般相談支援や自立生活援助については、相談支援専門員から利用方法等に関する事例報告を受け、制度理解を深めるとともに、実際の支援への活用について共有を行った。

#### 普及啓発委員会

●長期入院者訪問支援事業について、支援者養成研修に参加した方から、事業の概要や支援員の役割、実際の支援の流れ等について説明を受け、情報共有を行った。

●当事者とその相談支援専門員から地域移行に関してお話をいただいた。

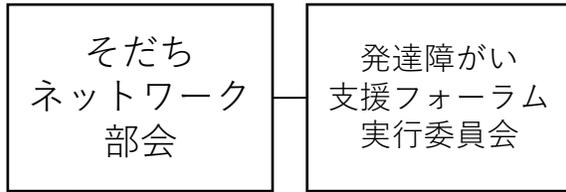
#### 【来年度に向けて】

来年度に向けては、引き続き精神障がいのある方の地域移行および地域定着支援を重要なテーマとして取組を進めていく。特に、長期入院から地域へ移行した後の地域定着支援や、長期入院を未然に防ぐ観点から、入院前の段階から地域の支援者が継続的に関わる予防的支援の重要性が確認されたことを踏まえ、地域の支援体制の強化や、早期から地域につながる支援体制の構築について検討を進めていく。

## 4、そだちネットワーク部会

【目的】 様々な障がいや困り感をもっている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと  
～3つの基本的柱～

①子どもの困り感や特性に合わせた支援      ②家族の気持ちに寄り添う支援（障がい受容の伴走者であること）      ③関係機関のネットワーク機能の充実



啓発動画のリーフレットも完成し、今後はYouTube配信の活用や学校関係者・支援者が集まる機会を活用し、啓発の具体的な場や方法を検討する。検討を踏まえ、来年度は実施していく。

柱①WG  
子どもの支援

●教育相談の場で、保護者が特別支援学級（通級等を含む）を正しく理解し、納得して入級を検討できるようにすると同時に、本人自身も自己理解を深め、将来の進学を主体的に考えられるようにするための合意形成の工夫・伝え方について協議を進めていく。

柱②WG  
家族の支援

●子どもの発達特性の有無に限らず、ポピュレーションアプローチの視点で、幅広く子どもや家庭を支えていくことを目指す。良好な親子関係が、子どもの将来の自立に繋がることをテーマとしたポスターを作成し、保護者が安心して育児に向き合えるような情報の提供と相談窓口の啓発を行う。

柱③WG  
ネットワーク  
充実

●義務教育終了後の相談支援体制の強化に向けて、本人や保護者が必要に応じて能動的に相談支援の仕組みに繋がることを促進するための取り組みについて検討を重ねている。今後は相談先等を記載したリーフレット等の作成及び義務教育終了前の時点での啓発の機会など、具体的な活用を見据えたツールの開発に向けて協議を進めていく。

【来年度に向けて】

上記の通り、進めていく

## 5、重心・医ケア部会

**【目的】** 北信圏域に住む医療的ケアが必要な障がい児等とその家族が抱える実態や支援体制の現状と課題を把握し、支援を行う関係機関が連携してその課題解決に取り組むことにより、医療的ケアが必要な障がい児等が地域で安心して暮らしていくことができる体制を構築する。

### 重心・医ケア部会

●新生病院における医療的ケア児者への支援の取組や、医療と生活をつなぐ支援の実践について情報共有を行い、医療機関が地域生活を見据えて果たす役割について理解を深めた。また、医療的ケア児者等支援を中心に行ってきたかすたねっとの取組についても共有された。

●かすたねっとについては、令和11年度をもって事業を医療的ケア児者の受け入れと支援を終了する方針であることが共有され、今後、同様の役割を地域でどのように担っていくのかが重要な課題として認識された。

#### 地域連携PJ

●長野県医療的ケア児等支援センター協力の基、県立こども病院との円滑な地域移行を実現するための連携に向けた協議を進めてきた。

●また、退院時ガイドブックについては、ほくしん・といろの会と連携し保護者の視点を取り入れながら改訂作業を進め、地域移行時の支援ツールとして活用していくことを確認した。

#### 地域課題PJ

●災害時個別避難計画（自助プランシート）の策定状況について、市町村ごとの取組状況を確認し、計画作成や運用にあたっての課題について情報共有を行った。

また、かすたねっとの令和11年度での医療的ケア児者の受け入れと支援の終了方針を受け、今後の地域における地域資源の確保について検討を行った。特に、医療的ケアに対応できる人材の不足が共通の課題として挙げられ、共生型サービスの活用や、地域全体で支える仕組みづくりの必要性について意見交換を行った。

#### 親の会PJ

●医療的ケア児の保護者同士の交流やニーズ把握等を目的に、「ほくしん・といろの会」を開催している。今年度は1回開催し、災害時の対応について学ぶとともに、悩み等について意見交換を行った。医療的ケアに対応できる支援資源が限られている現状や、医療的ケア児者等支援を担ってきたかすたねっとが令和11年度をもって医療的ケア児者の受け入れと支援を終了する方針であることに対する不安の声が多く寄せられ、地域における支援体制の課題が改めて共有された。あわせて、「といろの会通信」の発行を通じて、情報発信と課題の見える化に取り組んだ。

### 【来年度に向けて】

医療的ケアが必要な障がい児等が地域で安心して暮らしていくことができる体制を構築する為、長野県医療的ケア児等支援センターとも連携し3つのPJで課題検討を継続していく。

## 6、権利擁護部会

【目的】 障がい者、高齢者等の権利をどう支えていくかについて、幅広い観点から、関係機関の連携協力体制を強化していく中で、誰もが住みやすい街づくりを目指していく。

### 権利擁護部会

- 昨年度まで「身寄り問題」を中心とした課題整理を行ってきたが、令和7年度はその延長として、課題が深刻化する前段階での予防策に着目した取組を進めた。人生会議（ACP）やエンディングノートの理解促進を目的とした学習会を実施。※啓発・研修PJ 企画と運営
- 北信圏域成年後見制度等地域連携協議会へ提起した日常生活自立支援事業に関する課題については、引き続き同協議会における検討状況について部会長から報告を受け、部会内で情報共有を行った。
- 長野県自立支援協議会 権利擁護部会の内容を共有した。

### 啓発・研修PJ

- 権利擁護に関する理解促進を目的として、支援者および地域住民・当事者を対象とした寸劇啓発活動に取り組んだ。今年度は、人生会議（ACP）や成年後見制度をテーマとした啓発を3回実施した。
- 上記部会内研修の企画・運営を行った。

### 虐待予防PJ

- 今年度は、市町村虐待防止センターから提供された通報事例をもとに、虐待認定に至らなかったケースも含めて検討を行い、通報の背景や初動対応の難しさ、判断に迷う場面について意見交換を行った。
- 今年度も各事業所の虐待防止委員会を機能させる取組みについて、研修会を実施。講師からの講義を受け、各事業所での取組みや好事例等を支援者間で共有できる研修会を実施した。

### 差別解消運営PJ

- 昨年度に実施したバス会社を対象とした啓発活動について振り返りを行い、その効果検証を目的としたアンケート調査を実施した。
- 不動産会社を対象に、合理的配慮に関する理解促進と協力を目的とした働きかけを行い、障がいを理由とした入居制限等の課題解消に向けた取組を進めた。

### 差別解消支援地域協議会（実務者会議）

- 今年度の差別解消に向けた取組みを行うにあたり、長野県で毎年行っている出前講座を活用し、合理的配慮や差別に関する学習会を実務者会議内で実施した。

### 【来年度に向けて】

来年度も部会・各PJで、令和7年度からの継続テーマについて検討を進めていく。

## 7、幹事会

**【目的】** 北信圏域の障がい者福祉の現状と課題を踏まえながら、地域に必要とされる取り組みや施策の実現に向けて、さまざまな検討協議を行う。また、協議会が円滑かつ効果的に機能するための検討協議を行う事を目的とする。

### 幹事会

- 相談支援専門員の活動報告や、各部会、委員会等からの提案・報告を受け、地域の課題について共有を行う。
- 長野県自立支援協議会の内容の共有。

### 市町村課題 検討WG

- 雇用支援ネットワーク部会から提起された就労選択支援に関する課題については、課題の整理を行うとともに、令和8年度以降の体制整備の在り方について検討を行った。
- 市町村課題検討WGでは、第3期障害児福祉計画の推進に向け、児童発達支援センター中核機能の整備を進めるため、療育コーディネーターと連携し、各市町村こども家庭センターへのヒアリングを実施した。これを通じて、中核機能に関する説明を行うとともに、各市町村における連携体制や課題の把握を進めた。
- 第7期障害福祉計画および第3期障害児福祉計画の進捗管理を行った。

### 地域生活支援 拠点等事業 検討会

- 今年度から運営委員会に移管したコア会議を開催し、地域生活支援拠点等事業検討会と連動しながら協議を継続して行った。地域あんしんコーディネーターから挙げられた現場課題を基に、緊急時対応や地域体制の在り方について整理を行った。
- 地域体制強化共同支援加算に係る事例報告を通じて、緊急時等における地域連携の状況や課題について共有を行った。

### 北信地域市町村障がい福祉 相談支援等 研究会

- 相談支援体制の強化や人材育成を協議会全体の課題として位置づける必要性について検討を行った。今後は、相談支援体制の強化や人材育成をより実務的に進めていく観点から、研究会で担ってきた機能をどのように協議会内に位置づけていくかについて、関係者間で調整を進めていく。

### 【来年度に向けて】

各部会と連携しながら、障害福祉計画等を推進し、地域に必要とされる取り組みや施策の実現に向け、協議を継続していく。その中で地域の実情を把握しながら次期計画の作成に取り組んでいく。